

◆授業設計のポイント◆

- ・ 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化
- ・ 思考を広げ深める対話環境の設定
- ・ 学習プロセスを見通し・振り返る活動の充実

美術科学習指導案

学 級 3年6組（男子20名女子15名計35名）

場 所 第一美術室（3年校舎3階）

指導者 教諭 岩 崎 美 紀

1 題 材 工 芸

題材名 「15歳の箱～卒業制作木製小箱～」

2 題材設定の理由

木は日本に住む私たちにとって極めて身近な存在であり、自然素材といわれてきたが、近年、耐久性や強度、価格などの理由により、プラスチック等の化学素材が多く使用されるようになってきた。しかし、木にはプラスチック製品などにはない、木がもつあたたかさや柔らかさがある。技術の発達にともない、優れた工業製品がさらなる発展を示しているなかで、手作りのよさと、作品の中に込められている作る人の心に気付かせたい。学習指導要領の目標としても「使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。」と明記されおり、実生活で使うことができる木彫木箱は生活や社会の中の美術と豊かに関わろうとする資質・能力を身に付ける題材としてふさわしいと考える。

本校3年生は、これまでに木彫作品に取り組んだ経験がないが、1年時の版画制作や2年時の手ぬぐいデザインで消しゴムはんこを制作する際、彫刻刀を使用している。また、技術の授業の木材加工で板木を切って本棚やコーナーラックを製作しており、道具の扱いや材料の特性についての理解は一定以上の水準を身に付けていると考えられる。材料については、1、2年生で学習した中で多様な材料を扱った経験が少なく、話合いの場面で広がりや難しいと思われる。しかし、美術の表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組むので、話合いの対話の中で他教科や美術の既習事項を関連付けることができるのではないかと考える。

本題材では、木の利点を活用しつつ、作業の途中で自由に付け足すことや補修が出来にくいデメリットを様々な材料で補えることに気付かせたい。また、最初に作品の完成イメージをもたせるが、試行錯誤させながら、イメージやアイデアを発展させていきたい。制作の視点を「テーマに合った形・材料」「テーマに合った色」「面白さ」として制作に取り組ませる。話合いでは制作の視点をもとに「レーダーチャート」を制作者の価値意識と他者の価値意識で作成したものを根拠に、「用語集」や「さまざまな材料」を使用して取り組む。なんとなく感じるといった曖昧な言葉ではなく、しっかりとした根拠をもって話し合わせたい。また、これまでの授業の話合いの様子から、相手の考えや発言に対して、一言はアドバイスができるが、さらに質問したり批評したりする討論的言語活動が不十分である。訓練が不足していることが大きな要因であるが、今回の作品が中学校卒業記念作品であることから、自分なりの価値意識をもって、話合いに臨むのではないかと期待できる。今回重点的に取り組む汎用的な資質・能力として、「論理的思考力」のレベル4を目指して取り組む。さまざまな視点から物事を判断し、筋道を立てて、解決策を考えることで、自分なりの価値観を再確認し、他者の考えに触れ、

自分の視野を広げる力を身に付けることにもつながるのではないかと考えた。

3 題材の目標

- (1) 既習の知識や経験，材料や用具の特性を生かし，意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができる。（知識及び技能）
- (2) 使う目的や条件などを基に，様々な試行錯誤や友だちとの対話・相互鑑賞を通して主題を生み出し，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え，構想していくことができる。（思考力，判断力，表現力等）
- (3) 多様なものの見方，考え方を大切にしたものづくりの過程を楽しむことを通して，自らの成長を実感することができる。（主体的に学習に取り組む態度）

4 題材の指導計画（全6時間）

1 題材の把握と表現の発想と構想（2時間）	<p>「木製小箱を鑑賞し，アイデアスケッチを描こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題材の説明を聞く。 ・ アイデアマップに気付いたこと記入する。 ・ 制作の視点に沿ってマッピングする。 ・ テーマを決定し，アイデアスケッチを描く。 ・ 材料や制作の手順を考える。 ・ 友だちにレーダーチャートと意見を記入してもらおう。
2 表現・鑑賞（1時間：本時）	<p>「互いのアイデアスケッチを鑑賞し，よりよいものにしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の友だちから意見と自分の意図とを比較する。 ・ 友だちの意見を選択し，話合いのポイントを絞る。 ・ グループ会議を行う。 ・ アイデアを練り直す。
3 制作（3時間）	<p>「木製小箱を制作しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイデアスケッチを基に木製小箱を制作し，完成させる。

5 題材における評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>表現</p> <p>材料や用具，表現方法の特性などから制作の手順などを総合的に考えながら見通しをもって表そうとしている。</p> <p>鑑賞</p> <p>造形的な特徴などを基に，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p>	<p>表現</p> <p>使う目的や条件などを基に，使用する者の立場，社会との関わり，機知やユーモアなどから主題を生み出し，使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え，表現の構想を練っている。</p> <p>鑑賞</p> <p>目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，美意識を高め，見方や考え方を深めることができる。</p>	<p>主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい，美術を愛好する心情を深め，心豊かな生活を創造していく態度を養おうとしている。</p>

6 本時の実際 (3/6)

(1) 題材名 「15歳の箱～卒業制作木製小箱～」

(2) 目標

表現

ア 意図に応じて自分の表現方法を追求して、アイデアスケッチを創造的に練り直すことができる。
(技能)

イ 使う目的や条件などを基に、友だちとの対話・相互鑑賞を通して主題を追求し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、構想していくことができる。
(思考力、判断力、表現力等)

ウ 友だちとの対話・相互鑑賞を通して、多様なものの見方、考え方を知り、表現に生かそうとすることができる。
(学びに向かう力・人間性等)

鑑賞

ア 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉え、適切に理解することができる。
(知識)

イ 目的や機能などを理解し、制作した友だちの心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、適切な言葉で批評し合うことができる。
(思考力・判断力・表現力等)

ウ 主体的に鑑賞の活動に取り組み、アイデアスケッチの中によさや美しさなどを感じ取ることができる。
(学びに向かう力・人間性等)

(3) 授業設計の工夫

ア 美術科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化 **研究の視点1**

本時における「深い理解」に至った姿を「既習事項を活用し、思考を深め、目的や用途、機能、実生活や社会との関連、他者の意見、自分の思い等を総合した上でよりよいアイデアスケッチを練り直す姿」と設定した。「鑑賞の手引き」「用語集」を活用し、自分のアイデアスケッチに対する他者の意見を客観的に見取る手段として、グループ会議にレーダーチャートを取り入れることにした。

イ 思考を広げ深める手立ての工夫 **研究の視点2**

自分のアイデアが他者にどのように受け入れられるのか、グループ会議を通して捉えさせる。対話の中で思考をより深めるために、レーダーチャートを記入してもらった時に得た意見の中から追求したい意見を選択し、グループ会議の質疑事項にする。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実 **研究の視点3**

アイデアマップを活用し、思考の流れを意識させる。また、題材把握の際、生徒一人一人制作の手順が違うので、それぞれで見通しを意識するように指導する。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

論理的思考力 レベル4	
【生徒の姿】 <ul style="list-style-type: none"> 様々な視点から物事を判断し、筋道を立てて、解決策を考えることができる。 	【手立て】 <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を活用し、他の生徒のアイデアスケッチに対して、制作の視点に沿いながら、様々な視点から判断して、よりよい作品になるように具体的にアドバイスができるように考えさせる。

(5) 展開

過程	主な学習活動	時間 形態	指導上の留意点
導入	1 本時の学習目標を確認する。	2分	
	<p>〈学習目標〉互いのアイデアスケッチを鑑賞し、グループ会議でよりよいものにしよう。</p> <p>自分のアイデアスケッチを他者はどのように捉えるだろうか。よりよくするための改善点の意見をもらい、変更した方がいいところを明確にしたい。</p>		<p>・ 前時の学習内容を振り返り、アイデアスケッチを練り直すという本時の学習活動を捉えさせる。 研究の視点3</p> <p>常 課題発見力 レベル2</p>
展開	2 自分のアイデアスケッチとレーダーチャートを確認し、アドバイスをもらいたい内容について考える	4分 個人	<p>・ 自分のアイデアに対して他の生徒はどのように捉えたかをレーダーチャートによって客観的に見取りやすくする。 研究の視点1</p>
	<p>「気づき」 P1：自分の表現したいものが、他の人には伝わりにくいようだ。 P2：使いやすくするにはどのような工夫をすればよいだろうか。</p>		
	3 グループ会議を行う。お互いのアイデアスケッチについて批評し合い、よりよいものになるようにアドバイスし合う。	20分 グループ	<p>・ 話し合いの最後に、作成者が出た意見を言葉やメモで整理することにより、作品をどのように改善すればよりよくなるかを明確にする。 研究の視点2</p> <p>常 協働する力 レベル4</p>
展開	<p>「納得」 P1：もやもや感を出すには綿以外を検討した方がいいようだ。 P2：自分のテーマは伝わりにくいから、もっと伝わるように工夫した方がいいことがわかった。</p>		
	4 アイデアスケッチの変更点を確認し、アイデアスケッチを描く。	20分 個人	<p>・ 多面的・多角的に捉え、アイデアスケッチするように助言する。 研究の視点1・3</p>
<p>「意志」 P1：友だちの意見を参考に蓋を開けやすいように工夫をしたい。 P2：友だちの考えと自分の考えは違ったけれども、自分の考えを大事にしたい。</p>			
<p>本時の深い理解に至った生徒の姿 既習事項を活用し、思考を深め、目的や用途、機能、実生活や社会との関連、他者の意見、自分の思い等を総合した上でよりよいアイデアスケッチを練り直す姿。</p>			
終末	5 本時の感想、気付いた点や新しい発見、次時への課題などを「気づきメモ」に記入する。	4分 一斉	<p>・ アイデアマップを使って自分の考えの深まりを自覚できるようにする。 研究の視点3</p> <p>常 メタ認知 レベル3</p>
	6 次時の説明を聞く。		